

天童寺住持明暘法師を名誉顧問に推戴

横浜善光寺留学僧育英会

李幼麟さんは上海復旦大学を卒業、良寛研究のため来日、駒沢大学に留学し、善光寺留学僧第三期生となった異色の人材である。この李さんを案内役として今回の中国訪問が企画された。目的は、一、天童寺拝観と住持明暘法師を名誉顧問に推戴すること。二、杭州浄慈寺拝観と如浄禅師の墓前に詣でること。三、北京雍和宮（ラマ教寺院）で修行中のラマ僧嘉木揚凱朝を留学僧として受入れるについての最後の詰をおこなうことの三点。

六月十六日天童寺に拝登すると、明暘法師、予定が変わり昨日上海の龍華寺（兼務寺）に出かけられた由。そこで徳雲副監院並びに上海人民政府高官王生洪先生を通しての電話連絡により、私たちの旅行日程に合わせて二十日北京の広濟寺（兼務寺）で会ってくださることになった。それで予定通り翌十七日は杭州に赴き、浄慈寺に拝登、釈聖興知客和尚の案内で如浄禅師の墓前で読経。ついで十八日北京經由で西安に飛び、大雁塔、小雁塔拝観、兵馬俑坑、玄宗皇帝と楊貴妃の遊んだ華清池など観光し、二十日北京に戻り、広濟寺



に明陽法師を訪れ、名譽顧問就任をお願いした。役員名簿を提示すると、「両大本山狹下、山田天台座主、中村元先生等の名前をごらんになり、「みな知ってる方々」と顔を綻ばせて快諾、堅く握手をかわして激励してくださった。

次に二十一日、ラマ僧の受入れについて、これは半年も前、台湾の林夫人を通して北京雍和宮で修行中の嘉木揚凱朝を留学僧として受入れてほしい旨連絡があり、本人からも必要書類が送られてきたが、入国手続や身許引受け等につき調整が難航した。というのは、片や台北、片や北京、そして日本語が通じないというのが原因。そこで今回、三者が北京で会合し、結着をつけることになった次第。李さんの同時通訳で話は首尾よくまとまり、嘉木揚凱朝は九月以降愛知学院大学に入学可能の見込み。

今回の旅行の成功は李さんの語学力、人脈、そして人柄に負うところ極めて大で、善光寺留学僧がその力量を発揮してくれた最初の成功例といえなく、これは善光寺留学僧育英会としての画期的な成果だった。